

町の無料開講講座を紹介する連載コーナーです。今号は「陶芸教室」と「書道講座」を紹介します。

File.22



「美文字」で、人生を美しく豊かに 書道講座



場所 シンパシーホール 生徒数 18名(令和元年度) 開講日 第1・3火曜日 時間 19:00-21:00

参加者の声

● 藤原 秀典さん
元々絵を描くことを趣味にしており、絵と字をコラボレーションした作品を作りたいと教室に参加しました。絵とは違う筆運びや筆先を整えるテクニックなど新しい技法を丁寧に指導してくれて、大変参考になっています。

● 野口 幸さん
先生と以前からご縁があり、書道を初めてみたいと今年から参加しました。日々の仕事から離れて、「書」に熱中できることがとても大切な時間です。展示会では、バランスの難しい一文字の漢字に挑戦してみたいです。

● 関 良一さん
神社の檀家として、帳簿や塔婆などで筆を使う必要があり、きれいな字を書きたいと4年前から教室に通っています。文字の大きさやバランスなど注意する点を親身に教えてくれるので上達を実感しています。



1 講師と講座生の皆さんでの集合写真。仕上げた筆の「書」が筆を添えます。2 講座生が制作する「篆刻」。作品に個性と華やかさを演出します。3 生涯学習フェスティバルでの展示。

美しい文字は人生を豊かにしてくれます。ぜひ、書道始めて「美文字」習得を目指してみませんか。

問合せ シンパシーホール ☎ 87-5858



書道講座
講師 関 英子(静香) 先生

書道の極意を基礎から 丁寧に伝えます

30年前、恩師である鈴木紫香先生に出会い、書道の楽しさを知りました。子供達にも伝えたいと思い、資格を取り、書道教室を始め、4年前より町の教室を開講しました。

書道の極意は、正しい「字形」「点画」「線の引き方」の3つです。生徒さん一人ひとりの個性を生かしながら、基礎を丁寧に指導していきます。基礎を続けることで、皆さんの字がみるみる美しくなっていくのを実感しています。教室では、篆書から隷書、楷書と練習を重ねていき、展示会の発表に向けて自分の好きな文字を選択し作品を仕上げます。また、扇子書字やカレンダー作り、書に押す篆刻を学び、作品に押す印作りなど、飽きの来ない楽しいプログラムを用意しています。

File.21



童心に返り、夢中で土にふれ合う時間 陶芸教室



場所 ふれあいの里 伝統工芸館 生徒数 15名(令和元年度) 開講日 第1・3土曜日 時間 9:30-11:30

参加者の声

● 上野 正勝さん
仕事を定年退職後、指先を動かす脳トレに繋がると思い始めました。和気あいあいとした教室の雰囲気、時間を忘れて土いじりに熱中できます。奥が深い陶芸ですが、先生に教わりながら技術を高めたいです。

● 石山 洋子さん
新たな趣味を持ちたいと陶芸を始めて10年以上となりました。自分で制作した作品が食卓にたくさん並んでおり、とてもやりがいを感じています。兄弟や親せきからも喜ばれており、使いやすくおしゃれな陶器を作り続けていきたいです。

● 金久保 幸基さん
妻に勧められて、今年から教室に通い始めました。初心者でも、先生が分かりやすく教えてくれるので、毎回上達を実感します。そば打ちが趣味なので、自由制作ではそばをこねる大皿に挑戦したいです。



1 講師と講座生の皆さんでの集合写真。2 工房にはこれまで製作した素敵な陶器たちが並んでいます。3 ハワイ州上院議員が来町した際に初めての陶芸体験。熱心に取り組みました。

近年、朝ドラや世界で注目されている陶芸。町には陶芸に適した土が豊富にあり、境の陶芸文化を世界にアピールするチャンスです。定期的に陶芸体験教室を開催していますので、興味がある方はぜひご参加ください。

問合せ 中央公民館 ☎ 81-1340

世界中に境の陶芸文化を 広めていきたい

元々寿司職人で、お客様に出す器を町の陶芸教室に通い制作していました。前任者の引退に伴い、教室の生徒を中心に陶芸教室を再開。未熟ながら講師として教室を運営することになり、35年続けています。陶芸は芸術であり、資格や決まった形はありません。教室では、食器や小物など普段使いが出来るものから始めて、年度末に個人で考えた自由作品を制作してもらいます。作品を作る過程を大切に、生徒さんが楽しい雰囲気を取り組んでもらえるように心がけています。



陶芸教室
講師 篠崎 薫 先生